

小児がん拠点病院 現況報告書

令和元年9月1日時点について記載

✓チェック欄
に未入力なし

病院名	埼玉県立小児医療センター												
よみがな	さいたまけんりつしょうにいりょうせんたー										✓		
郵便番号	〒	330-8777									✓		
住所	埼玉県	さいたま市中央区新都心1-2									✓		
よみがな		さいたまけんさいたましちゅうおうくしんとしん									✓		
電話(代表)	048-601-2200										✓		
FAX(代表)	048-601-2201												
e-mail(代表)	n581811@pref.saitama.lg.jp												
HPアドレス	https://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/												
診療科	開設診療科数	21									✓		
	診療科名(具体的に記載)	小児科(血液腫瘍科、新生児科、代謝内分泌科、腎臓科、感染免疫科、循環器科、神経科、遺伝科、総合診療科、消化器・肝臓科)、精神科、アレルギー科、小児外科、移植外科、整形外科、リハビリテーション科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、小児歯科、病理診断科、救急科(集中治療科、救急診療科、外傷診療科)、臨床検査科									✓		
外来診療受付時間	曜日	月～金	時間	8	時	20	分	～	16	時	30	分	✓
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
外来診療時間	曜日	月～金	時間	8	時	45	分	～	17	時	00	分	✓
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
休診日	土曜日、日曜日、祝日、12月29日～1月3日												✓
初診時の予約	すべての診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)									✓	
初診時の紹介状の要否	すべての診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)									✓	
病床数	総病床数	316	床									✓	

診療実績（平成30年1月1日～12月31日）

年間新入院患者数 ※1	7,308	人
年間新入院小児がん患者数 ※1	365	人
年間新入院患者数に占める小児がん患者の割合	5.0	%
小児がん入院患者数 ※2	1,079	人
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	16,760	日
小児がん入院患者における再発患者数 ※3	9	人
外来小児がん患者数 ※4	3,432	人
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	75	人
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※5	13	人
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※5	88	人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	51	機関
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※6	20	人
小児がん患者を紹介した医療機関数	18	機関

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

- ※1 18歳以下を対象とする。年間新入院患者数は総数を計上する。
- ※2 入院患者数は延べ数で計上する。なお、同一患者が当月中に2回入院した場合には2件とし、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。
- ※3 18歳以下を対象とする。初回治療後に再発もしくは病態が増悪した入院患者数を延べ数で計上する。初回治療入院中に再発もしくは病態が増悪した場合も計上する。
- ※4 診断時18歳以下の診断例とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。
- ※5 診断時18歳以下の診断例とし、総数を計上する。
- ※6 診断時に18歳以下であった患者の総数を計上するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

がんに関する専門外来の名称	血液・腫瘍科 、 脳神経外科 、 フォローアップ外来	✓
---------------	----------------------------	---

届出された先進医療の状況

先進医療への対応状況（小児がんに関するもの）

別紙1

職員数	総数（事務職員を含む）	1,066	人
		人数	うち常勤（※）
	医師	185	120
	歯科医師	6	1

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めて

✓
✓
✓

薬剤師
保健師
看護師
准看護師
理学療法士
作業療法士
視能訓練士
言語聴覚士
義肢装具士
診療放射線技師
臨床検査技師
衛生検査技師
臨床工学技士
管理栄養士
栄養士
社会福祉士
精神保健福祉士
介護福祉士
保育士

22	19
0	0
531	519
0	0
8	8
6	5
2	2
8	3
0	0
25	25
43	36
0	0
8	8
6	4
0	0
7	4
0	0
0	0
5	0

人数 うち常勤(※)

日本小児血液・がん学会 専門医
日本小児血液・がん学会 指導医
日本小児血液・がん学会 暫定指導医
日本小児血液・がん学会 認定外科医
日本小児外科学会 専門医
日本小児外科学会 指導医
日本小児科学会小児科 専門医
日本小児神経学会 小児神経専門医
日本脳神経外科学会 脳神経外科専門
日本病理学会 病理専門医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
がん治療認定医機構 がん治療認定医
がん治療認定医機構 暫定教育医
日本放射線腫瘍学会 認定医
日本緩和医療学会 緩和医療専門医
日本緩和医療学会 緩和医療認定医
日本看護協会 がん看護専門看護師

3	3
1	1
1	1
2	2
4	4
3	3
86	78
6	6
2	2
1	1
0	0
5	5
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0
0	0

いる就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

日本看護協会 小児看護専門看護師
 日本看護協会 地域看護専門看護師
 日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師
 日本看護協会 緩和ケア認定看護師
 日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師
 日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
 日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師
 日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
 日本医療薬学会 がん専門薬剤師
 日本臨床細胞学会 細胞検査士
 日本医学放射線学会 医学物理士
 日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師
 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士
 一般社団法人 日本病態栄養学会/
 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士
 一般社団法人日本人類遺伝学会
 及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー
 一般社団法人日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー
 チャイルドライフスペシャリスト
 ホスピタルプレイスペシャリスト

4	4
0	0
1	1
1	1
1	1
0	0
1	1
2	2
0	0
1	1
4	4
2	2
0	1
8	4
0	0
2	0
0	0
2	1
0	0

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

病院名: 埼玉県立小児医療センター

「A」項目の充足状況... 76 / 76

100.0%

1 診療体制

(1) 診療機能

① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供

小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。

専門とするがんについて別紙2に記載すること。

A : 必須
B : 望ましい
- : 参考

はい: 記載内容を満たしている
いいえ: 記載内容を満たしていない

チェック欄に未入力なし

Aの充足状況

小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的に開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種の参加を求めている、カンサーボードで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。

カンサーボードの開催回数（平成30年1月1日～12月31日）

小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。

長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。

長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙3に記載すること。

AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。

AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況）について別紙4に記載すること。

急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。

治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。

生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙5に記載すること。

保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。

② 薬物療法の提供体制

薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。

薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制について別紙6に記載すること。

③ 緩和ケアの提供体制				24		
ア	小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム(以下「緩和ケアチーム」という)を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。	A	はい (はい／いいえ)	25	☒	☐
	緩和ケアチームの組織・体制について別紙7に記載すること。		別紙7	26		
	緩和ケアチームへの患者紹介の手順について別紙8に記載すること。		別紙8	27		
イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。	B	いいえ (はい／いいえ)	28	☒	
	緩和ケア外来について別紙9に記載すること。		別紙9	29		
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的を開催している。	A	はい (はい／いいえ)	30	☒	☐
	緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	10 回	31	☒	
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。	A	はい (はい／いいえ)	32	☒	☐
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例: 医療機関のwebサイトに掲載)	-	HPに掲載	33		
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい (はい／いいえ)	34	☒	☐
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。	B	はい (はい／いいえ)	35	☒	
	緩和ケア病棟について別紙10に記載すること。		別紙10	36		
④ 病連携・病診連携の協力体制				37		
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい (はい／いいえ)	38	☒	☐
	地域の医療機関との連携協力体制について別紙11に記載すること。		別紙11	39		
イ	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A	はい (はい／いいえ)	40	☒	☐
	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備している。	B	いいえ (はい／いいえ)	41	☒	
エ	ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B	いいえ (はい／いいえ)	42	☒	
⑤ セカンドオピニオンの提示体制				43		
	小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A	はい (はい／いいえ)	44	☒	☐
	セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙12に記載すること。		別紙12	45		
⑥ その他				46		
	小児がん患者の親へのケアを実施している。	-	はい (はい／いいえ)	47	☒	

(2)診療従事者				48	
用語の定義:					
専任:当該診療の実施担当者で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。				49	
専従:就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。					
※専任の人数には、専従も含めて記載すること。					
① 専門的な知識および技能を有する医師の配置				50	
ア 放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	5	人 1人以上	51	☒ ☐
放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	4	人	52	☒
イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	10	人	53	☒
薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	10	人 1人以上	54	☒ ☐
薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	6	人	55	☒
薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	10	人	56	☒
薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	6	人	57	☒
ウ 緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	6	人 1人以上	58	☒ ☐
緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	6	人	59	☒
緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	1	人 1人以上	60	☒ ☐
緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	1	人	61	☒
緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	7	人	62	☒
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	5	人	63	☒
受講率	-	71.4	%	64	
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	4	人	65	☒
受講率	-	57.1	%	66	
小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。	-	10	人	67	☒
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	68	☒
受講率	-	30.0	%	69	
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	5	人	70	☒
受講率	-	50.0	%	71	
施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、小児がん患者の主治医や担当医となることは想定されないが、主治医等から診察依頼を受けた場合や当直業務などで小児がん患者に対する診療を行うことがある者の人数。	-	171	人	72	☒
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	73	☒
受講率	-	1.8	%	74	
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	75	☒
受講率	-	0.0	%	76	
施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、病理診断医や放射線診断医など、小児がん患者との日常的な対面は想定されない者の人数。	-	6	人	77	☒
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	78	☒
受講率	-	0.0	%	79	
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	80	☒

--	--	--	--	--	--

受講率

-

0.0

%

81

施設に所属する初期臨床研修2年目から初期臨床研修修了後3年目までのすべての医師の人数。	-	0	人	82	✓	
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	83	✓	
受講率	-		%	84		
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	85	✓	
受講率	-		%	86		
病院長はPEACE(成人の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	87	✓	
病院長はCLIC(小児の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	88	✓	
エ 病理診断に携わる医師の人数。	-	1	人	89	✓	
病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	1	人 1人以上	90	✓	○
病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	1	人	91	✓	
② 専門的な知識および技能を有するコメディカルスタッフの配置						
ア 放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。	A	11	人 1人以上	93	✓	○
放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	11	人	94	✓	
放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。	A	11	人 1人以上	95	✓	○
放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	11	人	96	✓	
イ 薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。	-	19	人	97	✓	
薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	19	人 1人以上	98	✓	○
ウ 緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。	-	5	人	99	✓	
緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	5	人 1人以上	100	✓	○
緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	2	人	101	✓	
緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	0	人	102	✓	
エ 細胞診断に関する業務に携わる者の人数。	B	4	人	103	✓	
オ 小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。	B	6	人	104	✓	
うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	2	人	105	✓	
小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士(特に医療ソーシャルワーカー)、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援する担当者の人数。	B	17	人	106	✓	
小児科領域に関する専門的知識を有する公認心理士又は臨床心理士の人数	-	8	人	107	✓	
小児科領域に関する専門的知識を有する社会福祉士の人数	-	7	人	108	✓	
医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の人数	-	2	人	109	✓	
③ その他						
ア 小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)	111	✓	
拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数(放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A	はい	(はい/いいえ)	112	✓	○
学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい/いいえ)	113	✓	

			論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい／いいえ) ¹¹⁴	✓
--	--	--	---------------------------	---	----	-------------------------	---

(3)医療施設				115
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置				116
ア 放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A	はい	(はい／いいえ)	117 ☒ ☐
イ 集中治療室を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)	118 ☒ ☐
集中治療室を設置している場合、一般向けの特集集中治療室(ICU)の数	-	0	床	119 ☒
集中治療室を設置している場合、小児専門の特集集中治療室(PICU)の数	-	14	床	120 ☒
ウ 小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。	A	はい	(はい／いいえ)	121 ☒ ☐
小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況について別紙13に記載すること。		別紙13		122
小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙14に記載すること。		別紙14		123
小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	2	回	124 ☒
② 敷地内禁煙等				125
敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。	A	はい	(はい／いいえ)	126 ☒ ☐
敷地内は全面禁煙である。	-	はい	(はい／いいえ)	127 ☒
(4)診療実績				128
① 小児がんについて年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい／いいえ)	129 ☒ ☐
② 固形腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい／いいえ)	130 ☒ ☐
③ 造血器腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	はい	(はい／いいえ)	131 ☒ ☐
診療実績等について別紙2および別紙15に記載すること。		別紙2・別紙15		132
(5)その他				133
① 小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。	A	はい	(はい／いいえ)	134 ☒ ☐
特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。	-	はい	(はい／いいえ)	135 ☒
特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。	-	はい	(はい／いいえ)	136 ☒
② 小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。	A	はい	(はい／いいえ)	137 ☒ ☐
公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。	-	はい	(はい／いいえ)	138 ☒
日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。	-	はい	(はい／いいえ)	139 ☒
③ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。	A	はい	(はい／いいえ)	140 ☒ ☐
上記研修会を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置している。	-	はい	(はい／いいえ)	141 ☒
配置している上記研修会を受講した医師の人数	A	2	人	142 ☒ ☐
配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数	-	3	人	143 ☒
(配置していない場合)令和元年度中に講習を受講する予定である。	-		(はい／いいえ)	144
2 研修の実施体制				145
小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催している。	A	はい	(はい／いいえ)	146 ☒ ☐
小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙16に記載すること。		別紙16		147

3 情報の収集提供体制					148		
(1)相談支援センター					149		
小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	150	☒	☐	
	広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	チラシ配布・HPに掲載		151		
	相談支援センターの体制について別紙17に記載すること。		別紙17		152		
	相談支援センターの状況について別紙18に記載すること。		別紙18		153		
	相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙19に記載すること。		別紙19		154		
「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める	A	はい	(はい／いいえ)	155	☒	☐	
① 小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	156	☒	☐	
② 患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい／いいえ)	157	☒	☐	
③ 院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい／いいえ)	158	☒	☐	
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい／いいえ)	159	☒		
小児がん患者団体等との連携について別紙20に記載すること。		別紙20		160			
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)							
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい／いいえ)	161	☒	☐	
アの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	38	件	162	☒		
イ 領域別的小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい／いいえ)	163	☒	☐	
イの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	21	件	164	☒		
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい／いいえ)	165	☒	☐	
ウの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	16	件	166	☒		
エ 小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい／いいえ)	167	☒	☐	
エの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	212	件	168	☒		
エのうち、アピアランスに関する相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	41	件	169	☒		
オ 小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい／いいえ)	170	☒	☐	
オの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	56	件	171	☒		
カ 小児がん連携病院等および医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい／いいえ)	172	☒	☐	
カの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	15	件	173	☒		

キ	医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい／いいえ)	174	✓	○
	キの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	15	件	175	✓	
ク	AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。	A	はい	(はい／いいえ)	176	✓	○
	クの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	12	件	177	✓	
ケ	必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	178	✓	○
	ケの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	7	件	179	✓	
コ	その他相談支援に関することを行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	180	✓	○
	コの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	180	件	181	✓	
(2)院内がん登録					182		
①	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	(はい／いいえ)	183	✓	○
②	院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)	184	✓	○
③	院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数	A	1	人 1人以上	185	✓	○
	うち専従者の人数	-	1	人	186	✓	
	配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	(はい／いいえ)	187	✓	○
④	院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	A	はい	(はい／いいえ)	188	✓	○
⑤	適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	-	はい	(はい／いいえ)	189	✓	
⑥	院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	-	はい	(はい／いいえ)	190	✓	
⑦	院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。	B	はい	(はい／いいえ)	191	✓	
⑧	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策に必要な情報を提供している。	A	はい	(はい／いいえ)	192	✓	○
(3)診療実績、診療機能等の情報提供					193		
	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい／いいえ)	194	✓	○
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	HPIに掲載		195		
(4)その他					196		
	地域住民に対する病院、相談支援センター、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟(設置されているのみ)に関するアピールを別紙21に記載すること。		別紙21		197		

4 臨床研究に関すること					
他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。		A	はい (はい／いいえ)	198	
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい (はい／いいえ)	199	☒ ☐
(2)-1	進行中の臨床試験(治験を除く。以下同じ。)の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。	A	はい (はい／いいえ)	200	☒ ☐
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例: 医療機関のwebサイトに掲載)	-	HPIに掲載	201	☒ ☐
(2)-2	進行中の臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。	A	はい (はい／いいえ)	202	☒ ☐
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例: 医療機関のwebサイトに掲載)	-	HPIに掲載	203	
(3)	参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	B	はい (はい／いいえ)	204	☒
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例: 医療機関のwebサイトに掲載)	-	HPIに掲載	205	
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい (はい／いいえ)	206	☒
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月 (西暦XXXX年XX月)	207	
	臨床研究を支援する専門の各部門のメンバーについて別紙22に記載すること。		別紙22	208	
(5)	臨床研究コーディネーター(CRC)を配置している。	B	はい (はい／いいえ)	209	☒
	臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数	-	2 人	210	☒
	臨床研究の問い合わせ窓口について別紙23に記載すること。		別紙23	211	
	臨床研究の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	17 件	212	☒
	臨床試験以外の臨床研究実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	10 件	213	☒
	治験の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	6 件	214	☒
				215	☒

5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備			
(1) 保育士を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)
	-	15	人
	-	15	人
(2) 病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)
特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい／いいえ)
特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)
病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)
高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)
(3) 退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)
教育支援、復園・復学支援の状況について別紙24に記載すること。		別紙24	
(4) 子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)
AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい／いいえ)
(5) 家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい／いいえ)
	-	7	部屋
長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)
長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙25に記載すること。		別紙25	
(6) 家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)
(7) 患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	(はい／いいえ)
6 PDCAサイクル			
(1) 自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい	(はい／いいえ)
把握・評価の方法、改善策等について別紙26に記載すること。		別紙26	
(2) これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)
地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	HPIに掲載	

7 医療安全体制					240		
(1)	組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	241	✓	○
(2)	医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	242	✓	○
(3)	医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	A	はい	(はい/いいえ)	243	✓	○
(4)	当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。	-	はい	(はい/いいえ)	244	✓	
	当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。				245		
	① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。	A	はい	(はい/いいえ/-)	246	✓	○
	② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	A	はい	(はい/いいえ/-)	247	✓	○
	③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	A	はい	(はい/いいえ/-)	248	✓	○
(5)	医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	A	はい	(はい/いいえ)	249	✓	○
	医療安全体制について別紙27に記載すること。		別紙27		250		

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 埼玉県立小児医療センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在(実施件数は平成31年4月1日～令和元年7月31日)

先進医療窓口情報						
先進医療の実施						
		(実施しています／実施していません)				
先進医療A	問い合わせ窓口					
	窓口名					
	技術名					
	電話番号	代表		内線		
		直通				
	対象となる病名・病状					
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)			件		
先進医療B	問い合わせ窓口					
	窓口名					
	技術名					
	電話番号	代表		内線		
		直通				
	対象となる病名・病状					
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)			件		

各種小児がんの情報

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

小児がんについての対応状況を記載してください。
※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。
※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。
※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

✓チェック欄
に未入力なし

小児脳腫瘍

集学的治療の実施状況

○

(○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

病院名: 埼玉県立小児医療センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日												当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 （5診療科まで）	医師 数	当該疾 患を専 門とし て いる医 師数		手術	化学 療法	放射線療法				陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容			
						体外 照射	定位 放射線 療法	IMRT	小線源 治療		他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)		見出し	アドレス	治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野	
1 脳神経外科	4	4	状況	○	○	○	×	×	×	×				脳神経外科	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/shokai/gekashin/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
			実績	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし					http://					
2 血液腫瘍科	10	10	状況	×	○	○	×	×	×	×			脳腫瘍については、JPBTCの臨床試験に参加している。髄芽腫や胚細胞性腫瘍に対しては積極的に強力な化学療法を施行して放射線照射量の減量に努めつつ、良好な治療成績を達成している	血液腫瘍科	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/shokai/naikashin/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
			実績	なし	あり	あり	なし	なし	なし	なし					http://					
3 放射線科	5	5	状況	×	×	○	×	×	×	×			放射線技師、看護師によるプレパレーション等のさまざまな工夫により、できるだけ鎮静なしで放射線治療を行うように努めている。約70%の患者で鎮静が不要であり、これは他施設では見られない優れた実績である	放射線技術部	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/shokai/shinryo/h/	掲載あり	掲載なし	掲載なし		
			実績	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし					http://					
4 小児外科	8	8	状況	○	×	×	×	×	×	×	×	×	小児外科は、血液腫瘍科と密に連携し、早期に診断、手術が行う様に努めております。また生検や手術に内視鏡手術を積極的に取り入れ、患者さんが負担が少なく、かつ治療に遅延することなく診断ができるように努めております	小児外科	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/shokai/gekashin/	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
			実績	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし			http://					
5			状況												http://					
			実績												http://					
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください						治療名						治療内容								
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日						髄芽腫、上衣腫、膠芽腫、神経膠腫、頭蓋咽頭腫、髄膜腫														

小児の眼・眼窩腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日												各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 （5診療科まで）	医師数	当該疾患を専門としている医師数		手術	冷凍凝固術	光凝固術	化学療法	眼動注	放射線療法			陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください				※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容				
									体外照射	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			治療内容	治療実績	医師の専門分野		
1	眼科	2	1	状況	○	×	×	×	×	○	×	×	×					見出し	アドレス	掲載なし	掲載なし	掲載なし
				実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし						http://			
2	脳神経外科	4	4	状況	○	×	×	○	×	○	×	×	×					脳神経外科	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-6/shokai/gakashin/	掲載なし	掲載あり	掲載あり
				実績	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし					http://				
3	血液腫瘍科	10	10	状況	×	×	×	○	×	○	×	×	×					血液腫瘍科	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-6/shokai/gakashin/	掲載なし	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし					http://				
4	放射線科	5	5	状況	×	×	×	×	×	○	×	×	×				放射線技師、看護師によるプレパレーション等のさまざまな工夫により、できるだけ鎮静なしで放射線治療を行うように努めている。約70%の患者で鎮静が不要であり、これは他施設では見られない優れた実績である		http://	掲載なし	掲載なし	掲載なし
				実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし					http://				
5				状況														http://				
				実績														http://				
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名								治療内容									
他の治療(1)																						
他の治療(2)																						
他の治療(3)																						
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日					網膜芽腫																	

小児悪性骨軟部腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日												各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ							
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門とし ている医 師数	手術				化学 療法	放射線療法		陽子線 治療	重粒子 線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容							
			切・離断 術	患肢 温存術	再建術	骨移植 術		体外 照射	小線源 治療			他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)			治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野					
															見出し					アドレス				
1	整形外科	4	4	状 況	○	○	○	○	×	○	×	×	×											
				実 績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし											
2	血液腫瘍科	10	10	状 況	×	×	×	×	○	○	×	×	×											
				実 績	なし	なし	なし	なし	あり	あり	なし	なし	なし											
3	放射線科	5	5	状 況	×	×	×	×	×	○	×	×	×											
				実 績	なし	なし	なし	なし	なし	あり	なし	なし	なし											
4				状 況																				
				実 績																				
5				状 況																				
				実 績																				
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名								治療内容											
他の治療(1)																								
他の治療(2)																								
他の治療(3)																								
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日					骨肉腫、MRT																			

その他の小児固形腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ						
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数		手術	化学療法	放射線療法		陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください				各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容				
						体外照射	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)			見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野		
1 小児外科	8	8	状況	○	×	×	×	×				小児外科は、血液腫瘍科と密に連携し、早期に診断、手術が行う様に努めております。また生検や手術に内視鏡手術を積極的に取り入れ、患者さんが負担が少なく、かつ治療に遅延することなく診断ができるように努めております。	小児外科	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-6/shokai/sekashin/	掲載あり	掲載あり	掲載あり			
			実績	あり	なし	なし	なし	なし						http://						
2 血液腫瘍科	10	10	状況	×	○	×	×	×					血液腫瘍科	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-6/shokai/naikashin/	掲載あり	掲載あり	掲載あり			
			実績	なし	あり	なし	なし	なし						http://						
3 放射線科	5	5	状況	×	×	○	×	×					放射線技師、看護師によるプレパレーション等のさまざまな工夫により、できるだけ鎮静なしで放射線治療を行うように努めている。約70%の患者で鎮静が不要であり、これは他施設では見られない優れた実績である	放射線技術部	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-6/miukui/	掲載あり	掲載なし	掲載なし		
			実績	なし	なし	あり	なし	なし							http://					
4			状況												http://					
			実績											http://						
5			状況												http://					
			実績											http://						
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください						治療名						治療内容								
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日						神経芽腫、肝芽腫、胚細胞性腫瘍、腎芽腫、横紋筋肉腫、脂肪芽腫														

小児血液腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療の 特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ						
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾患を専門として いる医師 数	化学療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください			掲載されている内容						
				自家末 梢血幹 細胞移 植	血縁者 間同種 造血幹 細胞移 植	非血縁者 間同種骨 髄移植ま たは臍帯 血移植	体外 照射	全身 照射	他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)				治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野				
1	血液腫瘍科	10	10	状況	○	○	○	○	×	×				白血病、悪性リンパ腫等の造血器腫瘍については日本で最も症例数が多く、JPLSGの臨床試験への登録数も日本一である。造血幹細胞移植が必要な再発・難治例も多施設から積極的に受け入れている 放射線技師、看護師によるプレパレーション等のさまざまな工夫により、できるだけ鎮静なしで放射線治療を行うように努めている。約70%の患者で鎮静が不要であり、これは他施設では見られない優れた実績である	血液腫瘍科	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/sbokai/paikashinr	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
			実績	あり	あり	あり	あり	なし	なし						http://						
2	放射線科	5	5	状況	×	×	×	×	○	○							掲載なし	掲載なし	掲載なし		
			実績	なし	なし	なし	なし	あり	あり						http://						
3				状況											http://						
			実績												http://						
4				状況											http://						
			実績												http://						
5				状況											http://						
			実績												http://						
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください				治療名					治療内容												
他の治療(1)																					
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日				急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、若年性骨髄単球性白血病、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、ランゲルハンス細胞組織球症																	

長期にわたり診療するための具体的な診療体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 埼玉県立小児医療センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

自施設内における長期フォローアップの体制、他施設との連携による長期フォローアップの体制等について具体的に記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙3を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／－太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

1. 現行の自施設による長期フォローアップ体制

当センターでは、長期フォローアップ外来という特定の外来枠ではなく、通常の血液・腫瘍科外来にてフォローアップを行っていたが、まず平成27年1月より造血幹細胞移植患者を対象とした長期フォローアップ外来を開始した。退院後の初回外来時や移植後1年後、3年後等の節目で移植後フォローアップ外来を受診することにより、長期合併症のチェックを漏れなく行うことが可能になり、また患者や患者家族の抱える精神・心理的な問題についても時間を取って対応することが可能になった。

造血幹細胞移植以外の患者の長期フォローアップ外来は平成29年9月に開設した。現状では月曜午後2人枠である。原則として、原疾患治療終了後5年を経過して原疾患が治癒と判断できた段階で、フォローアップ外来を受診する。フォローアップ外来の初回受診時に各患者の長期合併症のリスク評価を行い、その評価に基づいて今後の長期合併症のスクリーニング計画を立ててフォローしていく。フォローアップ期間の方針としては、化学療法若しくは放射線療法を行った小児がん患者は全例、少なくとも成人する(20歳の誕生日)までは当センターでフォローアップする。この間に原疾患が再発した場合は、当センターで再発治療を行う。また、内分泌障害などの晩期障害が発生し、治療が必要な場合も当センターの該当する専門の部門に依頼し、必要な治療を行っている。20歳になった時点で患者本人と家族の希望を聞いて協議した上で、引き続き当センターでフォローアップするか、成人施設を紹介してフォローアップを依頼するかを決定する。引き続き当センターでのフォローアップを希望された場合は、30歳を上限としてしかるべき時点で成人施設を紹介する。20歳を超えて原疾患が再発した場合は、原則として成人施設に治療を依頼するが、症例によって柔軟な対応を行う。また、この間に発生した晩期障害については、当センターで対応可能な場合は当センターの該当診療科で治療することもあるが、基本的には成人施設に依頼する。

2. 他施設との連携による長期フォローアップ体制

当センターは平成28年12月にさいたま新都心に移転し、さいたま赤十字病院と隣接した新病院で診療を行うようになった。さいたま赤十字病院の関係各科と連携することで診療情報の共有やスムーズな紹介が可能になり、これまで以上に充実した長期フォローアップが可能になると考えられる。現在のところ、20歳代の移行期はしばらく両方の病院で診療し、徐々にさいたま赤十字病院に移行し、最終的には完全移行することを計画している。白血病等の造血器腫瘍については、埼玉県内の血液内科との連携が進んでおり、スムーズな移行が可能になってきている。今後の課題は、固形腫瘍の患者の移行である。

AYA世代への診療提供体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：埼玉県立小児医療センター

時期・期間：令和元年9月1日現在

AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況等）について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙4を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 なし（あり／なし）

ファイル形式 （ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

地域の成人内科の医療機関との連携が進み、AYA世代患者は増加傾向となっている。

移転前の旧病院においては、個室数が不足しており、プライバシーに配慮した療養環境の整備は十分でなかった。

平成28年12月に移転した新病院においては、個室が大幅に増加したため、AYA世代に対しては、個室を中心とした対応が可能となった。

さらにAYA世代が中心に入院する11B病棟においては、臨床心理士を中心として、ピアサポートの場を作る試みも開始した。

また、教育支援に関しては、平成27年4月より高校生への教育支援を開始し、学生ボランティアなどの協力も得て、支援を充実させている。

生殖機能の温存の支援を行う体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名: 埼玉県立小児医療センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在(患者数は平成30年1月1日～12月31日)

■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	1
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巢組織の凍結保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	0
がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	1

OK

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙5を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

現在は妊孕性の失われる可能性の高い治療(強い前処置を行う造血幹細胞移植、妊孕性に影響する抗がん剤の投与量が多い場合など)を行うがん患者に対しては、原則としてすべての患者に対して妊孕性温存についての情報提供を行っている。

具体的な連携先は、男児の場合は独協医大埼玉医療センター、女児の場合は埼玉医大総合医療センターである。妊孕性温存の具体的方法としては男児の場合精通が済んでいれば精子保存、済んでいなければ精巣保存、女児の場合は時間の余裕があれば卵子保存であるが、多くの場合は時間的余裕がないため卵巣保存である。

現時点では説明を行った患者家族のうち、実際妊孕性温存に至った例は少ないが、昨年度よりは増加しており今後はさらなる増加が予想される。

なお平成30年度から埼玉県は妊孕性温存に対する補助制度を開始した。経済的な問題で妊孕性温存に至らなかった患者に対しては大きな朗報であり、妊孕性温存患者の増加につながることが期待される。

薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名： 埼玉県立小児医療センター

開催された委員会の総件数： 6

時期・期間： 平成30年1月1日～12月31日

OK

化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の名称、開催頻度、委員会のメンバーを記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

委員会の名称	化学療法委員会	
委員会の開催頻度	定例会議:4回/年、臨時会議:2回	
委員会のメンバー	職種	役職
例	医師、看護師、薬剤師	腫瘍内科センター長、薬剤部長、副看護部長
1	医師 1名	血液・腫瘍科部長
2	医師 3名	血液・腫瘍科医長
3	医師 3名	血液・腫瘍科医員
4	薬剤師 1名	薬剤部副技師長/がん専門薬剤師
5	薬剤師 1名	がん薬物療法担当
6	看護師 1名	がん化学療法看護認定看護師
7	看護師 3名	看護部長
8	看護師 1名	医療安全管理者
9		
10		

OK

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 埼玉県立小児医療センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数： 18

OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

緩和ケアチームの名称		緩和ケアチーム		
職種		常勤／非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師	常勤	血液・腫瘍科(2名)、精神科(1名)	がん診療にかかわる医師のための緩和ケア研修会
2	医師	常勤	外科(1名)、麻酔科(1名)、集中治療科(1名)、新生児科(1名)	
3	薬剤師(2名)	常勤		小児がん症例経験あり
4	看護師	常勤	緩和ケア認定看護師	がん診療にかかわる医師のための緩和ケア研修会、緩和ケアチームのための小児緩和ケア教育研修
5	看護師	常勤	小児看護専門看護師	緩和ケアチームのための小児緩和ケア教育研修、小児緩和ケアに携わる看護師のためのエンド・オブ・ライフケア研修
6	看護師	常勤	10A病棟師長(がん性疼痛看護認定看護師)	ELNEC-J、がん診療に関わる医師のための緩和ケア研修会
7	看護師	常勤	11B病棟師長、4A副師長、5A病棟主任	
8	理学療法士(1名)	常勤		小児がん症例経験あり
9	チャイルドライフスペシャリスト(1名)	常勤		小児がん症例経験あり
10	医療ソーシャルワーカー(1名)	常勤		がん相談員基礎研修終了、公益財団法人がんとの子供を守る会評議員

OK

緩和ケアチームへの患者紹介の手順

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：埼玉県立小児医療センター

時期・期間：令和元年9月1日現在

緩和ケアチームへの患者紹介の手順について記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙8を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／－太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

1. 緩和ケアチームへの相談・依頼手順

1) 依頼用紙用いた方法

- ①主治医または、病棟看護師が、電子カルテ上の「緩和ケアチーム依頼書」を作成し、緩和ケアチームは依頼に応じる。
- ②血液腫瘍科以外の患児・家族に直接介入を希望する場合は、主治医に相談の上、緩和ケアチーム同意書を患児や家族に記入してもらい、緩和ケアチーム窓口に提出する。
- ③緩和ケアチーム窓口(血液腫瘍科医師、緩和ケア認定看護師)に電話連絡する。
- ④緊急性を判断し、メンバーが当該病棟に訪問し介入を開始する。
- ⑤介入後、依頼用紙の返信欄を記入し一時保存する。
- ⑥返信欄を記入したことを依頼者に伝える。

2) 口頭での方法

- ①直接口頭での相談依頼も可である。その場合、緩和ケアチーム窓口又はラウンド時に相談する。

2. ラウンドの方法

緩和ケアチームメンバーは、毎週金曜日13時30分から各病棟に電話をかけて、依頼のある病棟をラウンドする。
ラウンドの報告は患者カルテの記事に残す。

緩和ケア外来の状況

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：埼玉県立小児医療センター

時期・期間：令和元年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている（はい/いいえ）										
2	緩和ケア外来の名称										
3	担当診療科名										
4	主な診療内容・特色										
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ		見出し								
			アドレス	http://							
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）										
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表			(内線)				直通		
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表			(内線)				直通		

緩和ケア病棟の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

なし

病院名:

埼玉県立小児医療センター

時期・期間:

令和元年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している				
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理				
3	小児の入院可否				
4	緩和ケア病棟の形式				
5	緩和ケア病棟の病床数		床		
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し			
		アドレス	http://		
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）				
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く				
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数（人） ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	（例） 医師	2	（例） 精神保健福祉士	1

10	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://					
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://					
12	緩和ケア病棟の設備	例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室									
13	訪問看護ケアの有無	例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など									

地域の医療機関との連携協力体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 埼玉県立小児医療センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

地域の医療機関との連携協力体制について自施設の取り組みや今後の予定を記載すること。（例：診療実績の少ない●●については××病院と協力。●●治療については××病院へ紹介。小児がん患者の在宅医療については●●診療所と連携し、急変時には受け入れることとしている。成人領域については××病院と協力し定期的に情報共有を図っている。）2枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙11を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

ファイル形式

（ワード／－太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

1. 小児がん自体の治療連携

（1）当センターから他施設への依頼

当センターでは、網膜芽腫の局所治療を除くすべての小児がんの集学的治療が可能であり、小児がん自体の治療を他施設に依頼することは少ない。

網膜芽腫については国立がん研究センターに依頼しているが、眼球温存のための局所治療が必要な場合は当センターで治療可能である。

その他の小児がんの治療では、当センターで不可能な特定の検査・治療のみ他施設に依頼している。特に当センターが参加していない治験については国立がん研究センターや成育医療研究センター等に積極的に紹介している。

- ・小児がん患者を対象とした治験：国立がん研究センター（年間1-2件）、神奈川県立こども医療センター
- ・PET検査：埼玉医大国際医療センター、近隣の民間PETセンター、日本医科大学付属病院に依頼（年間数件）
- ・陽子線治療：筑波大学（年2件程度）、静岡県立がんセンター（過去1件）
- ・強度変調放射線治療（IMRT）：東京大学に依頼（過去1件）、埼玉県立がんセンター（過去1件）
- ・肝臓移植：自治医大または成育医療研究センターに依頼していたが、今年度から院内で実施可能となった。
- ・MIBG照射療法：金沢大学に依頼（過去1件）

（2）他の小児がん診療施設から当センターへの依頼

埼玉県内で小児がんの診療ができる施設は少なく、当センター以外では埼玉医大総合医療センター、埼玉医大国際医療センター、防衛医大、

独協医科大学埼玉医療センターのみである。当センターは、これらの施設で診療できない難治例、再発例、造血幹細胞移植が必要な例を積極的に引き受けている。

特に造血幹細胞移植については、県内からの依頼は全例引き受けている。

また、最近では高校生など16歳～19歳の年齢層のAYA世代の小児がん患者について、成人の医療施設（埼玉医大血液内科など）から依頼を

受けて診療する機会が増加している。特に白血病や悪性リンパ腫などの血液腫瘍については、内科よりも小児科で治療した方が治療成績が良いこともあり、確実に紹介患者数が増加している。特に高校生については別途記載するように本格的な教育支援が可能となったため、増加傾向が明らかである。

当センターは群馬県、千葉県、茨城県、東京都などの県外からの依頼も受けている。群馬県については主として同種造血幹細胞移植が必要な症例を群馬県立小児医療センター、群馬大学病院から受けている。茨城県については筑波大学からの依頼が主である。千葉県については地理的に千葉県内の小児がん診療施設よりも当センターの方が近い地域があるため、これらの地域の患者の治療を依頼される。東京都内からの依頼は、同種造血幹細胞移植例や、新規抗がん剤の治験にエントリーする患者などである。

また最近の傾向として、難治例で治癒の見込めない患者が希望して転院してくるケースが見受けられる。本来、転院の目的は治癒を目指す治療であるが、本邦においては小児がんの緩和ケアの水準は十分ではないため、このようなターミナルケア目的の転院を受けることも小児がん拠点病院の責務であると考えている。

2. 小児がん患者の日常診療の連携

当センターにおいて小児がんの入院治療が終了した患者はすべて例外なく、退院時に地域のかかりつけ医を紹介して日常診療を依頼している。多くは地域の診療所であるが、一部は地域の二次病院も含まれる。紹介にあたっては、当センターでの治療状況に関する詳細な情報を提供し、感冒や胃腸炎などの日常疾患の治療、予防接種などの健康管理を依頼している。

また、当センターでの診療が必要な状況の場合は365日、24時間、当センターで対応することを明記している。これにより、入院治療が終了した小児がん患者も感冒等の日常疾患では遠方の当センターに来る必要がなく、90%以上は地域の医療機関の診療で完結している。当センターの側も軽症の疾患の治療に忙殺されることなく重症患者の治療に専念でき、感染症の持ち込みを減らすことができる等の恩恵を受けている。地域医療機関も必要な場合はいつでも電話等で当センターに相談できることから、比較的安心して小児がん患者の日常診療に携わっており、スムーズな病診連携が実現できている。さらに新病院移転後は、さいたま市立病院やさいたま市民医療センター、自治医大付属さいたま医療センターなどの二次病院が地理的に近くなったことから、軽症から中等症で入院治療が必要な肺炎等の治療や積極的な治療が終了した小児がん患者の継続診療をさいたま市立病院等の二次病院に依頼することが可能になり、当センターの限られた小児がん患者のための病床を更に効率的に運用できるようになった。

3. 埼玉県内小児がん連携協議会

これまで以上に診療連携体制を構築するために、県内の小児がん診療施設を構成員として、「埼玉県内小児がん連携協議会」を設置した。平成25年度以降、年1回の協議会を開催している。従来以上に緊密な連携体制が構築されてきており、特に骨軟部腫瘍については、手術を埼玉県立がんセンターや自治医大さいたま医療センターの整形外科で行い、化学療法、放射線療法を当センターで行うといった連携体制が急速に進んできたことが大きな成果として挙げられる。

参加する医療機関は次の通り。

・埼玉医科大学国際医療センター ・埼玉医科大学総合医療センター ・防衛医科大学校病院 ・獨協医科大学埼玉医療センター
(オブザーバー) 埼玉県立がんセンター整形外科、自治医大さいたま医療センター整形外科、北里大学メディカルセンター脳外科

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

記載の有無 あり
※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 埼玉県立小児医療センター
時期・期間: 令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオン外来のご案内	アドレス	http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/annai/gairai/11-05.html		
問い合わせ先の 電話など	対応可能な 疾患名	対応した患者数 (実績)	担当する医師の情報			保険診療、または 保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載なし	掲載なし	掲載あり	掲載あり	掲載あり	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。
※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

✓チェック欄
に未入力な
し

小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門: ○/専門外: ×)	当該疾患の専門分野(専門: ○/専門外: ×)				
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください	
1人目	脳神経外科	○	○	×	○		
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	○		
3人目							
4人目							
5人目							

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○: 専門とするがん ×: 診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件	OK
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門: ○/専門外: ×)	当該疾患の専門分野(専門: ○/専門外: ×)				
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください	
1人目	脳神経外科	○	○	×	○		
2人目	眼科	○	○	×	×		
3人目	血液・腫瘍科	○	×	○	○		
4人目							
5人目							

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	整形外科	○	○	×	○	
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	○	
3人目						
4人目						
5人目						

OK

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	3	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児外科	○	○	×	○	
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	○	
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	9	件
セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	血液・腫瘍科	○	×	○	○	骨髄移植、臍帯血移植
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

OK

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 埼玉県立小児医療センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

小児がん患者の遊びの場（プレイルーム等）やAYA世代の交流・勉強の場、患者家族が語り合うための場（患者サロン等）について記載すること。さらにおもちゃ・図書・パソコン・運動設備等の有無、保育士等の配置などについても記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。2枚以内におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙13を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

ファイル形式

（ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

1. 患者家族が語り合うための場

①患者家族会（びすけっと）

- ・小児がんの患者家族の交流の場として定期的に毎月1回、午前11時～14時まで院内相談室にて家族会を開催している。
- ・患者家族が中心となり、ポスターや会報の作成や、書籍・資料を揃え様々な情報を提供している。

②院内に飲食可能な談話スペースを用意している。（写真①）

③患者家族セミナーを不定期に開催し、セミナー終了後に家族と患者本人に分かれてそれぞれで交流会の場を設けている。

2. 遊びの場（プレイルーム・図書・おもちゃなど）

- ・各病棟にプレイルームがあり、患者家族の交流、情報交換を行うことが可能な場所となっている。（写真②）
- ・患者の年齢に応じて様々な図書を整備している。また、おもちゃやゲーム、電子ピアノ等も整備している。（写真③）
- ・外来スペースにも遊びの場があり、子どもの安全に配慮し、興味関心を引く遊具が整備されている。（写真④・⑤）

3. AYA世代の交流・勉強の場

- ・学童期・AYA世代の患者が多い病棟では、勉強するための学習室が整備されている。（写真⑥）
- ・高校生への教育支援として、県立高校所属者には主要5科目の教員が在籍校より派遣される制度が平成30年度より開始され、入院中の学習が在籍校で単位認定されることとなった。

私立学校所属者に対しては、大学生による学習ボランティアの提供や、病院併設の県立特別支援学校による教育相談対応を行い、各所属校と連携し、学習・復学支援を行っている。

- ・臨床心理士が主体となり、入院中のAYA世代の患者を集めた交流会を月1～2回開催している。
- ・特別支援学校が併設され、小学生、中学生は学校で授業を受けることができる。体育館やプールも整備されており、体調に応じて運動が可能である。
- ・パソコン教室の整備されており、またタブレット端末による学習も積極的に行われている。体調や治療の状況によって教員がベッドサイドを訪問して学習を実施している。

4. 保育士

- ・平日8:30～20:15の時間帯、1病棟に2名配置している。プレイルームにて集団保育を行い、易感染の患者はベッドサイドで遊びを提供している。



写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥



小児がん患者およびその家族が語り合うための場

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：埼玉県立小児医療センター

時期・期間：令和元年9月1日現在

語り合うための場総件数：

2

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

	名称	主催者名	病院 職員の 関与	活動状況		参加対象者			主な活動内容	参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
				定期 / 不定期	頻度 (回)	病名	院外からの参加 (参加可/参加不可)	患者のみ / 家族のみ / 患者・家族		名称	電話番号
例	〇〇〇会	〇〇〇会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	相談支援センター XXX-XXX-XXXX(直通)	
1	びすけっと		あり	定期	月 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者家族の交流会を開催している。	相談支援センター 048-601-2200(内1492)	
2	アスターの会		あり	定期	年 2	小児がん	参加不可	家族のみ	年2回の遺族会を開催している。	相談支援センター 048-601-2200(内1492)	
3										名称	
4										名称	
5										名称	
6										名称	
7										名称	
8										名称	
9										名称	
10										名称	

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置なし	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書室の名称							
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
		アドレス	http://					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載		その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表			(内線)			
		直通1			直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例) 看護師	1	人	ボランティア		2	人
				人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	未実施						

OK

OK

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書等が設置されている場の名称	地域連携・相談支援センター						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
		アドレス	http://					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載		その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
		0	50冊未満	0	10種類未満	10種類未満	10種類以上	
			制限なし		制限なし	制限なし	制限なし	
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
		設置なし		設置なし		設置なし		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	048-601-2200		(内線)	1492		
		直通1			直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア		2	人
		ソーシャルワーカー	2	人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	実施						

OK

OK

診療実績等

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 埼玉県立小児医療センター

	年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	53	固形腫瘍合計	35
ALL	22	神経芽腫瘍群	8
AML	9	網膜芽腫	2
まれな白血病	1	腎腫瘍	1
MDS／MPDのうちCML	0	肝腫瘍	0
MDS／MPDのうちCMLを除く	1	骨腫瘍	1
Non-Hodgkin Lymphoma	3	軟部腫瘍	1
Hodgkin Lymphoma	0	胚細胞腫瘍	7
その他のリンパ増殖性疾患	0	脳・脊髄腫瘍	15
組織球症(HLH)	3	その他(診断名も記載すること)	
組織球症(LCH)	7		
その他の組織球症	0		
その他の造血器腫瘍	0		
Down症TAM 登録	6		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

小児がんに関する研修プログラムの状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名： 埼玉県立小児医療センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在（研修会等の回数は平成30年1月1日～12月31日）

■ 研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	3
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	1
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	1
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	1

OK

■ 研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数： 2

OK

プログラム名		期間	対象者	H30 年度 (人)	R1 年度 (人)	H26年度以降のプログラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先				プログラムの特徴	
							自施設 (人)	自施設以外				
		例 2年	例 医師卒後 〇年～〇年					大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外の 総合病院 (人)		その他 (人)
1	小児血液腫瘍疾患専門研修	2年	医師卒後5 －10年	4	4	16	4	6	3	2	1	これまで小児がん診療の経験が少ない者を対象に専門医を養成するプログラムである。主要な小児がん疾患については指導を受けながら診療方針を策定できる。終了時には専門医取得が可能になり、独力で小児がん診療ができる。
2	小児血液腫瘍疾患研修	6－12 か月	医師卒後5 －10年	0	0	2	0	0	1	1	0	自施設では経験できなかった稀な小児がん疾患や脳腫瘍、造血幹細胞移植の診療経験を積むことができる。自施設での経験を補完して専門医取得が可能になるプログラムである。
3												
4												
5												

相談支援センターの体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名:

埼玉県立小児医療センター

時期・期間:

令和元年9月1日現在

相談支援センターの名称、体制、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

相談支援センターの名称				小児がん相談支援センター				
相談支援センターのメンバー								
職種		常勤／非常勤	専従/専任/兼任	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況			中央機関 による研修
					基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)	
1	医師	常勤	兼任(5割未満)					
2	看護師	常勤	兼任(5割未満)	5	受講	未受講	未受講	受講
3	ソーシャルワーカー	常勤	専任(5割以上8割未満)	9	受講	受講	受講	受講
4	ソーシャルワーカー	非常勤	兼任(5割未満)	2	未受講	未受講	未受講	未受講
5	チャイルド・ライフ・スペシャリスト	常勤	専任(5割以上8割未満)	8	未受講	未受講	未受講	未受講
6	臨床心理士	非常勤	専従(8割以上)	2	未受講	未受講	未受講	未受講
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

OK

●年間の相談総件数(平成30年1月1日～12月31日)			463	件					
上記1件あたりの平均対応時間		平均	19	分	最短	5	分	最長	120
相談件数(令和元年6月1日～7月31日)								中央値	15

OK

	相談者	対面相談	電話相談	FAX相談	E-mail相談	計
1	自施設の患者・家族	29	13	0	0	42
2	他施設の患者・家族	0	3	0	0	3
合計		29	16	0	0	45

相談支援内容 ※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄で掲載する予定です。		相談支援の対象者
例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1	治療中の生活や将来の不安に対する心理・社会的支援	自施設と他施設の患者・家族
2	社会資源に関する情報提供及び利用支援(医療費助成や手当、疾病や生活に関わる情報提供と、必要な手続きの支援)	自施設と他施設の患者・家族
3	就学・復学支援(併設する特別支援学校と連携し、原籍校との復学支援会議や学校訪問、学校との対応に関するアドバイス、環境調整を実施)	自施設と他施設の患者・家族
4	退院後の生活支援(自宅環境や福祉サービスの調整、在宅医療、関係機関との連絡・手配)	自施設の患者・家族
5	きょうだい支援(CLSIによるきょうだいへの病気の説明や心理サポートを中心に、多職種で家族全体をサポート)	自施設の患者・家族

OK

相談支援センターの状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 埼玉県立小児医療センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

相談支援センターの相談員など、相談支援センターの雰囲気が伝わる画像を貼付してください。
この画像は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載いたします。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙18を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/ノータブル/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【必須】相談支援センターページの基本情報で掲載する画像を**「1枚」、上記の別添資料の有無に関わらず**提出してください。

※横長の写真の方が収まりがよいです。

※上記の別添資料と同じ画像でも構いませんが、写真ファイル名を**「別紙18相談支援センター画像」**として別に添付してください。

ファイル形式

PNG

(PNG/JPEG/GIF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。



相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 埼玉県立小児医療センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

1	相談支援センターの名称	小児がん相談支援センター										OK	
2	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	048-601-2200			(内線)	1492						
		直通1											
		直通2											
		直通3											
3	対面相談の実施(実施/未実施)	実施											OK
	予約の要否(必要/不要)	不要											
	電話相談の実施(実施/未実施)	実施											OK
	相談用の電話番号	代表	048-601-2200			(内線)	1492						
直通1					直通2								
予約の要否(必要/不要)		不要											
4	FAX相談の実施(実施/未実施)	未実施											OK
	相談用のFAX番号 ※半角英数で記載 ※代表番号は、直通番号がない場合のみ記載	直通1				直通2							
		代表											
	電子メール相談の実施(実施/未実施)	未実施											OK
	相談用の電子メールアドレス ※半角英数で記載 ※個人のメールアドレスは記載しないでください	1											
2													
5	相談員の職種・人数 ※選択肢に含まれていない職種の場合は、その他の欄に直接記載	(例)精神保健福祉士		2	人	ソーシャルワーカー(上記以外)		1	人				
		社会福祉士		2	人				人				
		看護師		1	人				人				
		医療心理に携わる者		1	人				人				
					人	その他				人			
					人	その他				人			
					人	その他				人			
6	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	実施											OK
	具体的な活動内容	難病のこども支援全国ネットワークのピアサポーターがボランティア室にて週3回開催している。											
	地域の患者会の情報提供の有無	あり											OK
	提供可能な患者会の数	4											

7	上記患者会の参加対象者の疾患名 ※特定の疾患の患者さんや家族を対象とした患者会が含まれている場合のみ記載 (例:乳がん、血液腫瘍、子どものがん、女性のがんなど)	小児がん全般
---	--	--------

小児がん患者団体との連携

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 埼玉県立小児医療センター

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

団体総件数: 6

OK

小児がん患者団体との連携(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。

小児がん患者団体			具体的な連携の内容 (例: 月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)
団体名	団体の参加対象者		
1	びすけっと	小児がんの患者家族	定例で月1回、患者家族の会を開催している。また、相談支援センターと共催でセミナーを実施している。
2	アスターの会	当センターで治療した小児がん患者のご遺族	年2回、遺族会を実施している。
3	公益社団法人 がんの子どもを守る会	全国の小児がんの患者家族	特別療養助成審査委員(医師)、評議員(ソーシャルワーカー)として活動している。また、療養助成の案内、リーフレット配布や患者相談での協力も行っている。
4	エゴノキクラブ	小児がんの患者家族	施設内の情報コーナーに団体発行のリーフレットを配布している。
5	ソーシャルデビュープログラム研究会	小児がん経験者	患者家族セミナーの講師として参加していただいた。
6	ピアブランケット	小児がん経験者	経験者の会として交流会の後援を行い、当センター患者にも語り合う場として案内している。
7			
8			
9			
10			

地域住民へのメッセージ

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 埼玉県立小児医療センター

※本別紙は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」のがん診療連携拠点病院のページに掲載することを目的としています。
※各項目200字以内で記載してください。

1	小児がん拠点病院としてのメッセージ
	(例) 当院は、すべてのがん患者さんの治療方針の決定を外科、腫瘍内科、放射線治療等複数の領域の専門家による「カンサーボード」によって十分に検討し、最善の治療を行うよう努めております。
2	当センターは白血病などの小児の血液がんの患者数が日本一多い病院です。固形がんもほとんどすべての種類の小児がんの診療を行うことが可能です。豊富な臨床経験に加えて、国内・海外の最新の情報を収集することにより、最善の治療を行うように努力しています。治療成績を改善するための小児がんの臨床試験には最大限の努力をして主体的に参加しており、登録患者数は日本一です。治りにくい患者さんに対する治験などの新しい治療についても積極的に取り組んでおり、当センターで実施できない場合には躊躇せず他施設に紹介するようにしています。2016年12月に移転した新病院はさいたま新都心駅から徒歩5分と近く、新幹線の大宮駅から徒歩1駅の距離であるなど、通院も大変便利になりました。
	相談支援センターからのメッセージ
3	(例) 医療ソーシャルワーカーが皆様のお話を伺い、一緒に考え、課題解決のお手伝いをさせていただきます。また、お話をお伺いし、専門の看護師やスタッフをご紹介させていただきます。
	小児がん相談支援センターでは、医師、看護師、ソーシャルワーカー、CLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)、臨床心理士がチームとなって、ご相談をうかがいます。お子さんとご家族の療養生活の不安や負担をより少なくするために、病気や生活に関わる様々な問題を一緒に考えさせていただきます。また、院内の埼玉県立けやき特別支援学校で、就学・復学支援にも積極的に取り組んでおり、本人、ご家族、地元学校がそれぞれ安心して自宅での生活に戻れるようサポートしています。
4	緩和ケアチームからのメッセージ
	(例) 緩和ケアチームには、長年緩和医療に携わっている経験を積んだ医師、看護師、薬剤師が含まれ、身体的な痛みを始め、患者さんの精神的苦痛を和らげるため、担当医と連携し、最善の医療を提供します。
5	緩和ケアチームでは、病気が原因で起こる様々な辛い症状や、精神的な辛さ・悲しみなどを和らげるためのケアを提供しています。特に身体的な痛みについては専門知識をもった医療者が主治医と連携し、患者さんやご家族のご希望をうかがいながら、より安心できる療養生活を送れるように、最善の治療を提供しております。新病院ではPICUやHCUといった集中治療病棟でも緩和ケアチームの活動を開始しました。
	緩和ケア病棟からのメッセージ(※緩和ケア病棟が設置されている場合のみ記載してください。)
6	(例) 緩和ケア病棟は、別棟となっており、全室から中庭に出ることが可能で、豊かな自然を感じて、充実した時間を過ごすことができます。

臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名:

埼玉県立小児医療センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

各部門のメンバー(個人情報を記載しないよう注意すること)

メンバー総人数:

5

OK

各部門名		各部門のメンバーの専門性・職種
例	事務部門、データセンター部門、コーディネーター部門、治験管理室	薬事専門家、CRC、リサーチ・コンシェルジュ、生物統計家、事務担当
1	臨床研究部	医師、臨床検査技師、事務担当
2	治験管理室	薬剤師、事務担当
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

臨床研究の問い合わせ窓口

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

下のチェック欄で「未入力あり」がないか確認してください

病院名： 埼玉県立小児医療センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

【臨床試験（治験を除く）】の問い合わせ窓口						
1	■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について				担当している診療科が窓口となっている	OK
	※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。					
	窓口の名称					
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
		アドレス	http://			
電話	代表		(内線)			
	直通					
2	■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について				担当している診療科が窓口となっている	OK
	※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。					
	窓口の名称					
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
		アドレス	http://			
電話	代表		(内線)			
	直通					

【 臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)】の問い合わせ窓口										
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について							担当している診療科が窓口となっている			OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称									
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			見出し						
				アドレス		http://				
	電話			代表		(内線)				
				直通						
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について							担当している診療科が窓口となっている			OK
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称									
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			見出し						
				アドレス		http://				
	電話			代表		(内線)				
				直通						
【 治験 】の問い合わせ窓口										
■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について							治験専用の窓口がある			OK
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称			治験管理室						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			見出し		治験管理室				
				アドレス		http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/shokai/shinryo/08-01-01/index.html				
	電話			代表		048-601-2200	(内線)	2620		
				直通						
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について							未入力あり			
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称			治験管理室						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			見出し		治験管理室				
				アドレス		http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/shokai/shinryo/08-01-01/index.html				
	電話			代表		048-601-2200	(内線)	2620		
				直通						

教育支援、復園・復学支援の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 埼玉県立小児医療センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

教育支援、復園・復学支援の状況について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙24を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／－太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

1. 教育支援

- ・入学とともにすみやかに転校の手続きを行い、併設された特別支援学校(小・中学部)で授業を受けることができる。
- ・ベッドサイドでの「訪問学級」と通学による「登校学級」があり授業を受けることができる。
- ・治療計画や病状や体調などに基づき、授業形態は流動的である。
- ・病棟では、必要があれば学習を別室で行えるように配慮している。
- ・高校生については、高等部の設置がないため、2015年4月より在籍校と連携した形で、学習支援を開始した。1日3時間、週5日の教員の観察下で自主学習を行い、在籍校からの課題などに取り組むことをサポートしている。また2018年より県立高校在籍者に対して県の補助を得て非常勤講師の確保が行われ、院内に在中しているため、入院中に実施された授業をもって単位認定や進級判定が行われることとなった。

2. 復学支援の状況

- ・小中学部に関しては、2018年は小学部23名、中学部9名が入院中に前籍校より転校の手続きを行って在籍し、退院後に全例が前籍校に復学している。
- ・復学前には、復学支援会議(原籍校教員、支援学校教員、児と保護者、医療者)を行い、学習の進行状況や学校生活での配慮点、病気と治療に関する医療的な説明を行うなどしてより円滑な復学を可能にしている。

3. 課題

- ・特別支援学校には高等部がなく、高校生に対する学習支援は十分とはいえないが、2015年4月より、高校生に対する学習支援が開始され、2名の特別支援学校の教育コーディネーターが在籍校と連携を行いながら、特別支援学校の教員の下、1日3時間 週15時間の自主学習時間を設け、入院中の継続的な学習環境を提供することにより、単位変換や進学のサポートを行っている。上記に示すように、県立高校に在籍中の高校生に対しては、支援制度が開始されたため、非常勤講師による直接の指導が可能となり、非常に有効な支援となっているが、今後も継続的な指導を行える制度の確立を要請していく必要がある。

長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 埼玉県立小児医療センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備（調理スペース、ランドリー、プレイルーム等）、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙25を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

病院内(6階)にドナルド・マクドナルドハウスが運営する家族宿泊施設が7室あります。

- ・アクセス情報 埼玉県立小児医療センター6階(2階南玄関よりエレベーターで6階)
- ・利用方法 埼玉県立小児医療センター他に入院または通院中の20歳未満の患者と付き添い家族が対象です。
- ・利用料金 利用料 1,000円/1人/1日 リネン使用料 200円 駐車料金 300円/日
- ・お申し込み 電話でお問い合わせください。TEL:048-601-0123

エントランス



ベッドルーム



リビング



キッチン・ダイニング



ユニットバス



ランドリー



プレイルーム



多目的室



PDCAサイクルについて

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 埼玉県立小児医療センター

時期・期間: 令和元年9月1日現在

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

①院内の見やすい場所に掲示している

はい

(はい/いいえ)

②院内誌、チラシ等で広報している

はい

(はい/いいえ)

③ホームページに掲載している

はい

(はい/いいえ)

④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

<http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/center/jisseki/kaniyamanzokudot>

⑤地域の広報誌等で広報している

いいえ

(はい/いいえ)

⑥その他の方法で掲載している

いいえ

(はい/いいえ)

⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3か月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 患者満足度の向上	外来患者の63%、入院患者の69%が満足する。	毎年原則12月に患者アンケートを行う(患者満足度調査)。
2 患者QOLの向上	投書者が特定できる手紙に対して、対応結果等を回答する。	投書箱を院内に設置して、患者・ご家族から提案、意見、苦情等を受け付ける。(病院長への手紙)
3 "	頂いた意見に対しては、対応結果等を回答する。	小児医療センター施設内で働き、日頃患者・ご家族と接する方々からご意見を貰う。(ご意見記入カード)
4 "	頂いた意見を施策等に反映させる。	センターで活動する様々な団体や患者団体と意見交換を行う。(みんなで病院を育てる会)
5		

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	今年度も患者満足度調査を行う予定であり、準備を進めている。結果を集計して施策に反映させる(患者満足度調査)
2	週1回投書箱から回収して、担当部署に対応を検討してもらっている。(病院長への手紙)
3	毎月末に各関係施設等から回収をして担当部署に対応を検討してもらっている。(病院長への手紙)
4	毎年1回開催しており、今年度は10月に開催した。(みんなで病院を育てる会)
5	

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙26を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり

(あり/なし)

ファイル形式

ワード

(ワード/ノータブル/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

別添のとおり(ご意見カード、病院長への手紙)

医療安全体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名： 埼玉県立小児医療センター

時期・期間： 令和元年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

医療に係る安全管理を行う部門の名称			医療安全管理室		
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー					
職種		常勤／非常勤	専従／専任／兼任	人数	うち、医療安全対策に係る研修を受講した者の人数
1	医師	常勤	専従		
			専任		
			兼任	1	1
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
2	薬剤師	常勤	専従		
			専任	1	1
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
3	看護師	常勤	専従	1	1
			専任		
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

OK

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		医療安全相談窓口				
電話	直通					
	代表	048-601-2200	(内線)	2955		

OK